

至：有馬方面

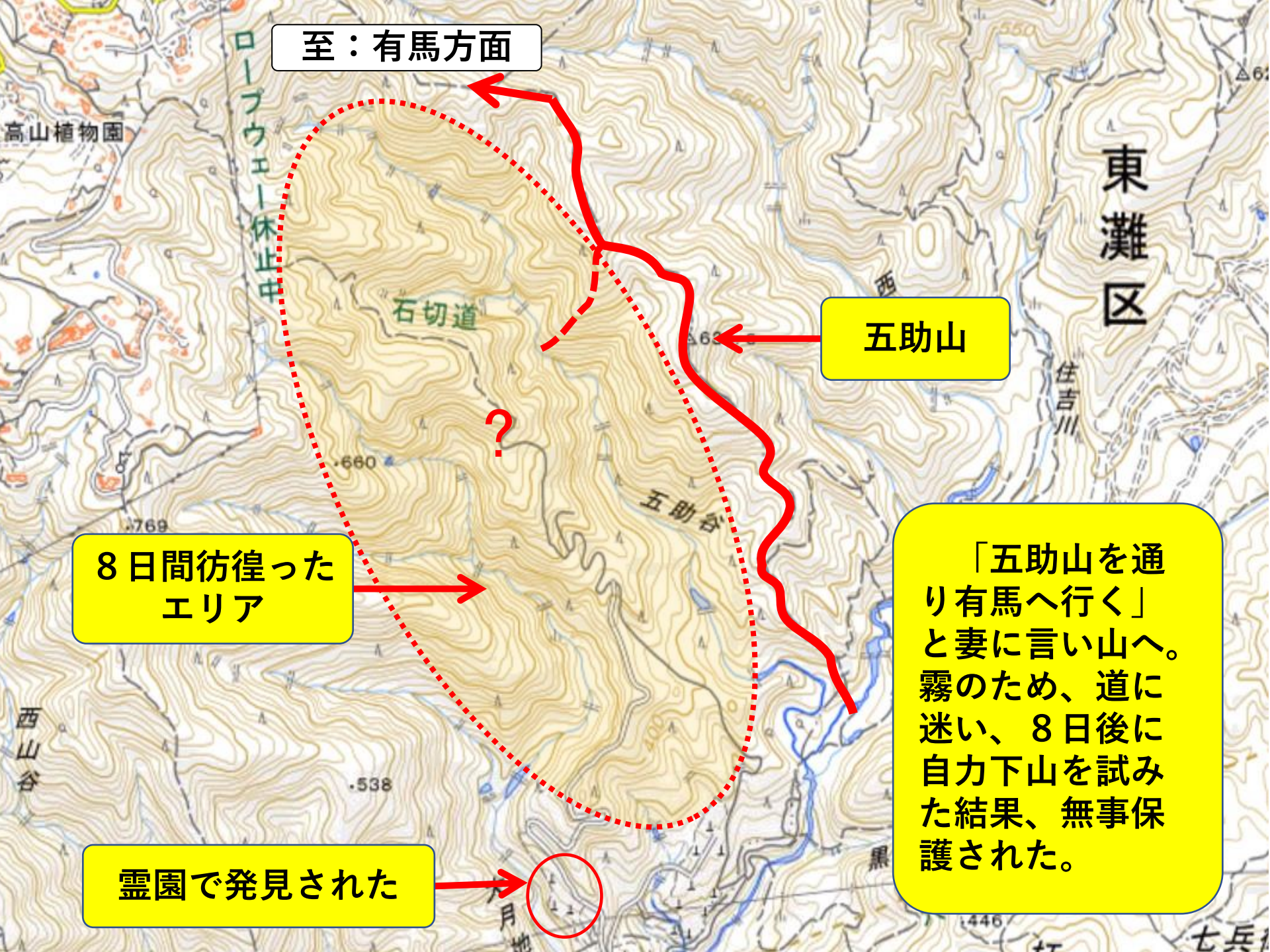
東灘区

五助山

8日間彷徨った
エリア

霊園で発見された

「五助山を通り有馬へ行く」と妻に言い山へ。霧のため、道に迷い、8日後に自力下山を試みた結果、無事保護された。



都会に近い六甲山での道迷い。64歳の男性が、霧のため方向が分らず、笹が多く道が不明になり迷ったものと思われる。残念ながら、携帯電話は持っていなかった。山中を行ったり来たりし、山の中を彷徨ったのだろう。体力も低下し、堰堤近くで山の水を飲み救助を待った。中々、救助されなかったため、ザックを捨て自力下山したところ、墓参りに霊園へ来ていた方に保護された。（HP要約）

高いところに登っていけば、六甲山があり、車が通っている道もある。有馬へ向かう登り道での道迷いだと思うが、都会に近いエリアで8日間彷徨うことになった。救助を待ち、体力の消耗を避ける事も必要だが、自力下山も必要である。この「救助を待つ」のか「自力下山」するのか、山が不慣れな方は迷うところである。都会に近いとはいえ、藪の中では、下ることも登ることも不安で、冷静ではいられなかったのだろう。

冷静ではいられないので「何も考えず行動」してしまう。しかし、「何も考えずに行動する」ことが道迷いにとって一番危険であることを肝に銘じたい。